



京臨技会報

KYOTO ASSOCIATION OF MEDICAL TECHNOLOGISTS

発行所 (社)京都府臨床検査技師会
 発行責任者 湯浅 宗一
 編集者 白波瀬 浩幸
 〒606-8395 京都市左京区東丸太町
 9番地の1 マンパワービル3F
 TEL・FAX 075-752-5090
 E.mail : mbox2@kyoto-amt.js-md.net

CONTENTS

TOP	第 18 回北部学術発表会
PICK UP	血液凝固講演会・凝固機器展示会
	第 4 回病理・細胞講演会
SCHEDULE	行事予定 (11 月・12 月)
ACTION	第 3 4 回くらしと健康展
	第 9 回新入・転入会員研修会
SEMINAR	研修会報告
PROCEEDINGS	理事会議事録 (第 3 回、第 4 回)

第 18 回北部学術発表会

恒例の第 18 回北部学術発表会を開催いたします。今年は、特別企画として YIA (Young Investigator's Award) を企画準備中です。北部学術発表会は京臨技会員ならどなたでも発表や参加いただけますので、若い方はもとよりベテランを含めた会員諸氏の積極的なご参加をお待ちしています。

一般演題も下記要項で広く募集していますので、積極的にご応募ください。

日 時 : 平成 19 年 12 月 15 日 (土)

場 所 : 福知山市 サンプラザ万助

学会長 : 芝田和代 (舞鶴共済病院)

実行委員長 : 高見昌幸 (舞鶴赤十字病院)

特別講演 (市民公開講座):

がんを知ろう (仮題)

大村健二先生 金沢大学医学部

一般演題 : 公募 [発表時間 : 質疑応答を含め 10 分、パワーポイントによる口演のみ]

(1) 演題受付 : 10 月 9 日 (火) ~ 11 月 16 日 (金)

(2) 抄録受付 : 10 月 9 日 (火) ~ 11 月 22 日 (月)

(3) 申込み方法 : 原則として e メール受付

演題名、分野、所属、発表者名を明記してください。抄録は word もしくはテキストファイルにて A4 一枚以内。

送付先 : 舞鶴共済病院 臨床検査科 仲田 司

e メール : rinken@maiduru.com

参加費 : 500 円 (会員) 3,000 円 (非会員)

懇親会費 : 2,500 円

お問い合わせ :

北部学術研究班 (綾部市立病院 四方 学)

Tel. 0773-43-0123

E.mail: shikata.m@ayabe-hsp.or.jp

舞鶴共済病院臨床検査科

仲田 司 Tel. 0773-62-2510 (ex.141)

河田尚子 Tel. 0773-65-4123 (直通)

PICK UP

ピックアップ レポート

血液凝固講演会・凝固機器展示会

日時：平成 19 年 8 月 24 日（金）（16:00～20:00；リサーチパーク 4 号館）

日時：平成 19 年 8 月 25 日（土）（10:00～17:00；リサーチパーク 4 号館）

参加人数：128（73）人 分類：専-30

主題：DIC・血栓症における凝固線溶マーカーの臨床的意義

講師 1：岡本 好司 講師（産業医科大学 医学部 第一外科）

主題 2：症例から学ぶ DIC の臨床と血液検査

講師 2：朝倉 英策 准教授（金沢大学医学部附属病院 高密度無菌治療部）

協賛：第一化学薬品、シスメックス、三菱化学メディエンス、ロシュ・ダイアグノスティックス、和光純薬、日水製薬、エムシーメディカル

去る 8 月 24 日（金）、25 日（土）の 2 日間にわたり京都府臨床検査技師会、機器メーカー協賛で血液凝固講演会及び凝固機器展示会が同時開催されました。

8 月 25 日（土）12：00～13：00（ランチョンセミナー）

教育演題 1：DIC・血栓症における凝固線溶マーカーの臨床的意義

講師：岡本 好司 講師（産業医科大学医学部第一外科）

座長：志賀 修一 技師（京都大学医学部附属病院）

8 月 25 日（土）15：00～16：00

教育演題 2：症例から学ぶ DIC の臨床と血液検査

講師：朝倉 英策 准教授（金沢大学医学部附属病院高密度無菌治療部）

座長：由木 洋一 技師（京都府立医科大学附属病院）



滋賀県技師会員 10 名、大阪府技師会員 9 名、兵庫県技師会員 6 名、奈良県技師会員 2 名、他府県の方で、最も遠方の方は熊本大学病院の方 1 名、金沢医科大学病院の方 1 名の参加がありました。

【内容】

今回の講演会は各社メーカーの凝固分析機器展示（協賛）もあり技師会の講演会では今までにない規模の講演会・機器展示会を京都リサーチパーク 4 号館で 2 日間にわたり行いました。参加していただいた方は 2 日間合計で会員 73 名、非会員 1 名、賛助会員 54 名で合計 128 名と非常に多くの方に参加していただきました。参加された方の技師会所属別で見ると京都府技師会員 4 名、

【教育演題 1】

教育演題内容としては、25 日（土）12：00～ランチョンセミナーの形で DIC・血栓症における凝固線溶マーカーの臨床的意義について、産業医科大学医学部第一外科の岡本好司先生に公演していただきました。DIC に関する医療現場での最先端の情報を症例を交えて解り易く説明していただき、難しいと思っていた凝固線溶分野の各検査項目の理解を深める事が出来ました。



【教育演題 2】

教育演題の 2 つ目は、25 日(土) 15:00 ~ 症例から学ぶ DIC の臨床と血液検査について、金沢大学医学部附属病院高密度無菌治療部の朝倉英策先生に公演していただきました。演題内容は、DIC とは? という基礎的な説明から、DIC の病型分類を具体的に解説していただきました。DIC 診断における FDP(D-dimer) の限界では DIC の病型により FDP(D-dimer) のみでは正確な病態把握をする事に限界がある理由と DIC の病態を正確に評価する為には各種マーカーを合わせて測定する事で正確な病態評価が可能になる事が解りました。DIC 病型分類における線溶活性化マーカー PIC、凝固活性化マーカー TAT、線溶阻止因子 PAI の臨床的意義及び検査の重要性、診断・治療との結びつきを症例を交えて解り易く説明していただき DIC に関する知識をより深める事が出来ました。



講演会終了後、参加された大勢の方から凝固線溶マーカーの臨床的意義、DIC の複雑な病態が理解できて良かったと言う声を聞く事が出来ました。又、質疑応答では参加された皆さんから活発な質問がなされていて関

心の高さが感じられました。

【機器展示会】

今回の凝固機器展示会は機器メーカーに協賛していただいた為、大掛かりな規模で実施されました。展示機器は CS-2000i (シスメックス)・コアプレスタ 2000 (第一化学薬品) STA-R Evolution・CoaguChek XS (ロシュ・ダイアグノスティックス) ACL-ElitePro (三菱化学メディエンス) エバネット EV20 (日水製薬) COAG2 (和光純薬) KC1 (エム・シー・メディカル) と大型～小型までの最新凝固機器が展示されました。



各社様々な特徴を有する機器が展示されており、機器の改良点やルーチン業務に役立つ機能を目の前で比較、説明を聞く事が出来ました。参加された皆さんは各社の機器説明を熱心に聞いておられました。又、講演会会場の空き時間を利用してメーカー各社の機器説明 DVD が放映されました。こちらに関しても大勢の方が熱心にご覧になられていました。



文責：宇田 真也(株式会社いかがく)

第4回病理・細胞検査講演会

日時：2007年8月25日(土)(13:00～17:00；大阪医科大学 PA 会館 1 階)

参加人数：63(4)人 分類：検体検査-20

主題1：呼吸器領域の病理・細胞診の検体処理の実際 ～より正確な診断を得るために～

講師：北川 勇一 技師(近江八幡市立総合医療センター)

講師：中村 純子 技師(兵庫医科大学病院)

講師：長谷川 和彦 技師(京都桂病院)

講師：寺本 友昭 技師(国立病院機構近畿中央胸部疾患センター)

主題2：呼吸器領域の臨床と病理・細胞診 ～臨床医の立場より(治る肺がんを見つけよう)～

講師：楠 洋子 医師(国立病院機構近畿中央胸部疾患センター政策医療研究部)

副題3：病理医の立場より(小型肺癌について)

講師：大林 千穂 医師(兵庫県立がんセンター検査部病理)

平成19年8月25日(土)に第4回病理・細胞検査講演会が大阪医科大学 PA 会館 1 階の講義室で行われました。この講演会は大阪府臨床検査技師会、兵庫県臨床検査技師会が合同で行っていたものに、昨年より京都府臨床検査技師会が加わり、本年より滋賀県臨床検査技師会が加わって4府県合同講演会となり、充実した内容で行われるようになりました。

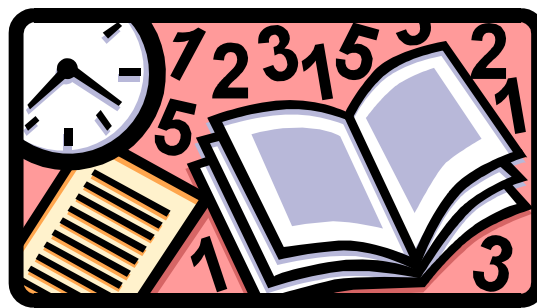
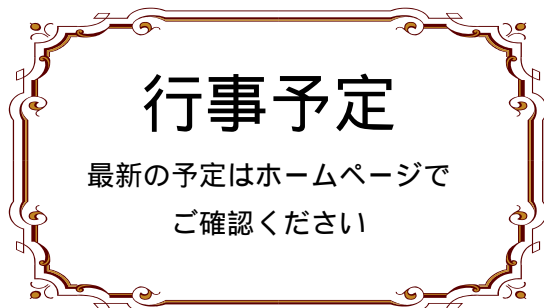
第1部では呼吸器領域の検体処理等について、各府県より1施設ずつそれぞれの施設にて取り組まれていることを発表していただきました。採取法、塗抹、固定等の処理の仕方、染色などの標本作成法を中心に、それぞれの施設で行っている方法、工夫点などをあげておられました。また、腫瘍性病変での取り扱い及び、感染性病変も常に頭に置いておき処理を行うことの大切さも教えていただき、それに伴い検体採取現場や標本処理時の感染対策についてもそれぞれの意見を頂きました。施設により規模や取り扱う内容は様々ではありますが、呼吸器領域の検体処理その他について大変参考になる講演でした。

第2部では臨床医、病理医それぞれの立場から講演を頂きました。臨床医の立場からは肺癌は色々難しい面もありますが、早期で発見することが大事であることをいろいろなデータを示しながら教えていただきました。検診のことも触れられ、費用面、被爆の問題もありますがCT 検診と喀痰細胞診を組み合わせた検診が有効であるという事でした。病理医の先生からは小型の肺癌を中心に、こちらもたくさんの画像や細胞像、病理像写真を用いて鑑別点等の話があり、日常のルーチンに役立つ話でした。お二人の話を聞き肺癌は、組織型、大きさ、発生部位によって治療法が変わるので、特に組織型の判定は我々の関わる領域であり、しっかり取り組まなければとあらためて感じさせられました。パネルディスカッションの場で、話は講演内容のことだけに留まらず禁煙の大切さについてまで及び、参加者の肺がんに対する関心の高さもうかがえました。

今回の講演会是我々のアピール不足もあったのか、京都からの参加者が少なく残念でありましたが、来年以降も合同講演会は行われる予定なので、ぜひ興味のある会員の皆様多くの参加をお願いしたいと思います。

文責：江口光徳(宇治徳州会病院)





微生物分野【研修会】07-035

日時：平成 19 年 11 月 02 日（金）19:00～21:00
 会場：メルパルク京都第 3 研修室
 主題：「薬剤耐性菌感染症」- 抗菌薬療法と免疫補助療法を中心に -
 講師：斧 康雄 教授（帝京大学医学部微生物学講座主任教授）

主題：「免疫グロブリンの作用と臨床効果について」
 講師：吉田 英 氏（株式会社ベネシス営業部近畿・東海グループプラズマプロダクトマネジャー）

血清分野【研修会】07-040

日時：平成 19 年 11 月 9 日（金）18:30～19:30
 会場：京都アスニー
 主題：メタボリックシンドロームと免疫 ～アディポネクチンを例に取り～
 講師：渡辺 裕司 氏（富士レビオ株式会社）

一般分野【実技講習会】07-033

要・事前申込み：ホームページ参照
 日時：平成 19 年 11 月 10 日（土）13:00～17:00
 会場：京都保健衛生専門学校 5 階講堂
 主題：時間外の一般検査に必要な基礎知識
 講師：佐伯 仁志 技師（国立病院機構京都医療センター）
 主題：時間外に必要なグラム染色の基礎知識
 講師：繁 美希 技師（久御山南病院）

病理分野【研修会】07-038

日時：平成 19 年 11 月 10 日（土）14:30～17:00
 会場：京都府立医科大学臨床講義棟 2 階南臨床講義室
 主題：免疫染色における工夫点～自動染色装置ベンタナ XT システムベンチマーク（ベンチマーク XT）～
 講師：北村 和則 氏（ベンタナジャパン株式会社）
 主題：免疫染色に関わるポイント
 副題：～自動免疫染色装置 Bond System について～
 講師：手嶋 豊彦氏（三菱化学メディエンス株式会社）

微生物分野【研修会】07-036

日時：平成 19 年 11 月 16 日（金）19:00～21:00
 会場：ハートピア京都視聴覚室
 主題：「感染症診療の進め方」- 尿路感染症とセフェム系抗菌薬の使い方 -
 講師：松村 康史 医師（京都市立病院内科・感染症科）

情報システム分野【研修会】07-024

日時：平成 19 年 11 月 17 日（土）15:00～17:00
 会場：京都大学医学部附属病院検査部会議室
 主題：医療統計学講座 2
 講師：佐藤俊哉 先生（京都大学大学院医学研究科社会健康医学専攻 医療統計分野 教授）

輸血分野【研修会】07-037

日時：平成 19 年 11 月 17 日（土）14:00～17:00
 会場：京都アスニー
 主題：症例検討から学ぶ輸血検査
 講師：小黒 博之 技師（オリンパス株式会社ダイアグノスティックシステムズ国内営業部輸血営業推進室）ほか

血液分野【研修会】07-030

日時：平成 19 年 12 月 01 日（土）14:00～17:00
 会場：キャンパスプラザ京都 2F 第 1 会議室
 主題：Case Study4
 講師：宇田 真也 技師（株式会社いかがく）
 主題：私の目指した血液形態学 38 年の足跡
 講師：平井 通雄 技師（元 大津赤十字病院）

チーム医療分野【研修会】07-039

日時：平成 19 年 12 月 01 日（土）13:00～16:40
 会場：ぱるるプラザ京都
 主題：講演 『シックデイ指導のコツ』
 講師：村田 敬 医師（京都医療センター 糖尿病センター）
 主題：講演 『シックデイの病態』
 講師：山口 朋子 医師（京都医療センター 糖尿病センター）
 主題：ワークショップ『仮想症例検討 シックデイ どうすれば重症化を防げたか』
 講師：村田 敬 医師（京都医療センター 糖尿病センター）

情報システム分野【研修会】07-025

日時：平成 19 年 12 月 15 日（土）15:00～17:00
 会場：京都大学医学部附属病院検査部会議室
 主題：医療統計学講座 3
 講師：佐藤俊哉 先生（京都大学大学院医学研究科社会健康医学専攻 医療統計分野 教授）

1/12, 2/16, 3/8：シリーズ開催予定

ACTION

活動報告

第 34 回くらしと健康展

愛生会山科病院 大田 小百合
 京都大学医学部附属病院 丹羽 紀実
 京都大学医学部附属病院 中野 佑美
 国立病院機構京都医療センター 佐伯 仁志



【はじめに】

第 34 回くらしと健康展が 9 月 15 日(土)、16 日(日)の 2 日間京都府総合見本市会館(パルスプラザ)で開催された。主催は京都府医師会・京都府糖尿病会・京都府栄養士会、京都府臨床検査技師会・京都府看護協会・京都府放射線技師会・京都禁煙推進研究会・京都府・京都市でした。今年のテーマは「知って防ごう!メタボリックシンドローム」を掲げ臨床検査技師会として検査コーナーを担い、血糖検査、心電図検査、昨年人気の高かった目の疲労度チェックを実施した。両日に出務者は検査技師会会員 28 名とジョンソン&ジョンソン、日本光電、WOC の出展企業より 4 名のサポートを受け血糖検査(1329 名)、心電図検査(562 名)、目の疲労度チェック(462 名)と多くの市民が検査を受けられた。又、併催「SKY ふれあいフェスティバル 2007」の会場では「お酒はほどほどに。禁煙の輪をひろめよう。」等のスローガンのもと舞台発表、シルバー作品展・サービス展示、健康体操などがあり盛況であった。(文責:大田小百合)

【目の疲労度チェックコーナー】

今年度も株式会社 WOC 協力の下に「目の疲労度検査」を行った。

昨年同様大変な人気となり、土曜日は午前午後ともに行列の待ち時間が 1 時間を越え、検査終了時間前行列をキャンセルしなければならないほどであった。主に来場者の整理を担当したが、この検査を目当てにしてきた来場者も少なくなく、何人の方にも丁寧に断りせざるをえなかった。われわれ臨床検査技師が従事する臨床検査とは少し距離のある検査であるが、無侵襲で、数分で結果が出る点も大きな魅力だと思われた。被検者に優しい検査について考えさせられた。(文責:丹羽紀実)

【心電図検査コーナー】

初めて参加させてもらいました。100人近く心電図をとり、大変でしたが、一緒に心電図をとっていた人達はやさしく、楽しく時間を過ごすことができました。こんなにたくさんの方が来るとは思っていなかったので驚きました。違う病院で働く人達と一緒に過ごす機会が、あまりないので良い刺激になりました。心電図をとりに来る人は、病院に来る人とは違う感じの人がいて、いろんな人がいるんだと感じました。服をなおす所が、男性・女性がたまに一緒になる時があったので、もう少し場所が何とかならないかと思いました。普段とは違う環境で過ごして、楽しかったです。また、いい勉強になりました。始まる時はいつもと違う機械で不安でしたが、無事に終わってよかったです。(文責：中野祐美)

【血糖検査コーナー】

例年どおり、血糖検査は指先で行う形で行われ、9月15日、16日共にたくさんの方が来場した。家族、ご夫婦で測定されたりと楽しい雰囲気であった。来場者は血糖値を聞くときに「血糖値が高くないか？」を気にしていらっしゃる方が多く、尋ねてみると、過食の心当たりがあったり、日常の食生活が気になっていた方などの声があった。また検査を受けた方の中には、血糖コントロールをされていて、非常に良好な方もいたが、今まで医療機関を受診されたことが無いが、血糖値(随時)が200mg/dlを超える方もおられ、糖尿病の相談コーナーに行っていたくよう案内した。

(文責：佐伯仁志)

第9回新入・転入会員研修会

今年度の新入・転入会員研修会は9月14日(金)午後6時-9時、京都教育文化センター3Fに於いて開催され、新入会員10名、仮会員3名、研究班代表8名、会員6名、理事13名、事務員1名、講師田中先生を含め総人数42名でした。司会進行は林孝俊理事で行なわれました。

湯浅会長の挨拶、林雅弘総務部副部長より、京都府臨床検査技師会の活動について説明がありました。また、荻野学術部長より、学術部の活動について説明があり活発な技師会活動を呼びかけました。

講演は京都大学医学部附属病院検査技師長の田中美智男氏に新人に向けて、これからの医療についての講演がありました。講演内容は新入技師の心構えや、医療費について(検査コスト)検査技師として取

京都第二赤十字病院 芦田 英之り組める事柄、経験談を交えてお話をされました。また、各種資格についても言及され、広く、深い知識を持ち、日々研鑽に努めることの重要性を講演されました。これらの言葉は、新入・転入会員だけでなくベテラン会員も技師としてのありがたさを考えさせられました。

研修会の後半は、懇親会をかねてグループ対抗クイズグランプリを行いました。クイズ中に、指定の研究班からの班長が研究班活動について、参加のお願いなどを報告されました。

クイズの優勝チームは、最後に大逆転で優勝された面々の笑顔を掲載しておきます。9回目となる研修会は、新入会員とベテラン会員との懇親も出来たと思います。通常の勉強会の参加も期待しております。



SEMINAR

研修会報告

●●● 臨床化学 07-020

日時：平成 19 年 08 月 28 日（火）（18:30～20:30；
京臨技川端丸太町事務所）

参加人数：26（13）人 分類：C-10

主題：新規感染症マーカー プロカルシトニン

副題：～敗血症（細菌性）の鑑別診断、重症度判定
の補助に～

講師：中井 剛史 氏（和光純薬株式会社臨薬営業
本部）

主題：免疫学的測定過去、現在、未来～次世代測定
原理 LOCI 法の検査における有用性～

講師：斉藤 憲祐 氏（デイドベリング株式会社
マーケティング部）

協賛：和光純薬株式会社、デイドベリング株式会
社

新規感染症マーカー プロカルシトニン

1, プロカルシトニン(PCT) とは

2, どこで産生されるのか?

3, PCT の血中動態について

4, プロカルシトニンの臨床的有用性について

- ・敗血症（細菌性）の鑑別診断の有用性
- ・重症度判定の有用性

PCT は Ca 代謝関連ホルモンのひとつ、カルシトニ
ンの前駆物質であり、正常代謝状態では血中への放
出はない重症細菌感染症で上昇し(6-53 ng/mL)、治
療により速やかに低下する局所感染またウイルス
感染のみでは低レベルを示す（それぞれ 1.5、1.4
ng/mL を超えない）

熱傷後の上昇は、感染性合併症に関連する
全身性細菌感染では、ほぼ全身の臓器・組織におい
て PCT が産生され、代謝されずに血中に分泌される
甲状腺摘出例においてもその産生が認められる

細菌性敗血症での PCT の sepsis 診断効率は、CRP、
IL-6、LAC と比べ感度、特異度などにおいて優れる
PCT は SOFA score の増悪とともに上昇し、ステロ
イド投与症例においても正の相関関係が認められ
た

反応時間：2-3 時間、産生刺激：細菌感染、サイ
トカイン、エンドトキシン等、半減期：20-30 時
間 PCT 測定試薬が定量法(測定時間は専用装置で 20

分)と、目視判定可能な半定量法(用手法 30 分)の形
でキット化、販売されている

免疫学的測定過去、現在、未来

1, ホモジニアスアッセイとヘテロジニアスアッセ
イについて

2, LOCI (Luminescent oxygen channeling
immunoassay) の原理と応用

イムノアッセイ法には、B/F 分離を必要としない均
一系（ホモジニアス）アッセイ：免疫比濁法、ネ
フェロメトリー、ラテックス凝集法などと、B/F 分
離を必要とする不均一（ヘテロジニアス）アッセ
イ：RIA、EIA 法などある

後者には標識物質を検出する蛍光、化学発光、電気
化学発光法があり、一般的に高感度化できるが測定
時間が長くなりやすい

LOCI は均一系のアッセイであるにもかかわらず高
感度という特徴を有する原理として一重項酸素を
伝達することで発光することを利用したイムノア
ッセイである、フタロシアニンという青色の色素を
含むセンシビーズと、オレフィンを含むケミビーズ
の 2 種類のラテックス粒子を使用するセンシビーズ
に 680nm の赤色の光を照射すると、この光が吸収
されるとともに周囲の酸素が励起され、一重項酸素
が発生する オレフィンは一重項酸素と反応する
と 612 nm の発光する

一重項酸素は半減期が 4 μs と非常に短く両ビーズ
が接近していることが発光の条件となる検体中の
目的物質が多いほど多くの免疫複合体が形成され
発光量が増えるこの 612nm の光の強さから検体中
の目的物質の濃度を測定する

LOCI を応用した臨床試薬が開発されており、使用
検体の少量化、高感度、反応時間の短縮、測定インジ
の広い測定系をその特徴とする

次世代分析装置としてワークセル方式、LOCI 法、
ネフェロメトリー法を搭載、各々の測定項目に最適
な測定原理を採用した免疫複合機が 9 月開催の自
動化学会にて発表される

平成 19 年 08 月 28 日報告：下川原 えり

●●● 生理 07-014

日時：平成 19 年 08 月 04 日（土）（15:00～17:00；

京都保健衛生専門学校）

参加人数：11（10）人

主題：超音波基礎研修会

講師：大道 和也 氏（東芝メディカルシステムズ株式会社）

例年この時期に実施している、超音波基礎に関する研修会を行なった。今回は従来よりさらに基礎的な、超音波についての物理学的性質から超音波診断装置の画像の成り立ちについての講演であった。また、様々な物質（食材）を用いた実験（デモンストレーション）を行い、講演内容を実際に再現し、超音波像の成り立ちとその虚像について理解を深めることができた。

・周波数

周波数の意味 / 音：音の三要素 音色とは / 周波数分析：スペクトラム図 フーリエ変換 / 画像における周波数：周波数特性（f 特）

・感度（減衰とノイズ）

ノイズ：ノイズの定義 / 感度：感度の定義 S/N 比 / 減衰

・アーチファクト

超音波画像の作り方 / 多重反射 / サイドロープ / 音響陰影 / 屈折 / レンズ幅 / 後方散乱：スペckルパターン

講演の中でも述べられていたが、超音波像は虚像である。画像内には様々なアーチファクトが存在し、実在していても表示されない、あるいは実在しなく

ても画像が構築される場合がある。これらの仕組みや原理を理解していないと重大な失敗を起こしかねない。超音波検査を正確、かつ効率的に行なうためには、超音波画像の長所と短所を充分理解する必要がありその知識が要求される。

毎回、同様の感想を述べているが、臨床的な知識および技術の習得に重点を置くことに異論はないが、超音波検査を行なうにあたってはその診断能力を向上させ、正しい診断を下すためにも、超音波についての物理学的な知識は必須である。超音波像の中に含まれる虚像の部分を見抜き、間違った判断を回避するためにもこれらの知識の習得に努力を向けてもらいたい。

平成 19 年 08 月 08 日報告：西村 和司



●●● 生理 07-014

日時：平成 19 年 09 月 29 日（土）（14:00～17:00；
京都保健衛生専門学校）

参加人数：27（20）人

主題：超音波実技講習会

講師：鮎川 宏之 技師（医仁会 武田総合病院）

講師：山田 宣幸 技師（三菱京都病院）

講師：今川 昇 技師（京都工場保健会）

講師：武田 千恵美 技師（医仁会 武田総合病院）

講師：大塩 稔 技師（社会保険京都病院）

2007 年 9 月 29 日に京臨技生理研究班主催の「超音波実技講習会」を京都保健衛生専門学校 5 階講堂にて行った。実技講習の領域は前年度同様、腹部・心臓・頸部血管であり超音波診断装置は、フィリップス、東芝、アロカ、GE 横河に協力を頂き 5 台を準備しておいた。

当日の参加者は昨年よりやや少なめではありましたが、ほぼ予定通りの参加であった。

昨年の実技講習会は、心エコー・腹部エコーは 2 グループに分けて行いましたが、今年は血管エコーの希望者が多く腹部エコーは 2 グループ、心エコーは 1 グループ、血管エコーを 2 グループに分けて実技講習を行いました。心エコーの実技内容は、B モードにおける各種断面の描出方法とドプラーを用いた心機能評価の方法を中心に行いました。腹部エコーは各種臓器の描出のコツを中心に行いました。血管エコーは頸動脈エコーのルーチンの進め方について中心に実習して頂きました。毎年感じられることでは有りますが殆どの受講者が未経験から 3 年目くらいまでの方で実技時間が短く感じられた方が多かったのではなかったかと思いますが、少しでも明日以降の業務に役に立って頂ければという思いで講師 5 名は取り組んで頂けたと思います。来年も受講者が充実できる内容を取り入れていけたらと思います。

平成 19 年 10 月 09 日報告：鮎川 宏之

平成19年度第3回定例理事会議事録

日時：平成19年8月9日(木)18:30~20:30
 場所：京都大学医学部附属病院検査部 会議室
 議長：湯浅宗一

書記：今田 議事録署名人：白井、小澤

出席顧問：田畑

欠席監事：清井

出席理事：湯浅、今井、石澤、今田、江見、大田、荻野、小澤、
 白井、豊山、丹羽、林孝俊、廣瀬

委任状出席：白波瀬、芦田、小原、佐々木、林雅弘、若栗

欠席事務局員：山方

1.【報告事項】

湯浅会長報告

1) 日臨技関係

・「第3回AAMLS学会日臨技企画運営委員会」委員の委嘱について(依頼)

2) 近臨技関係

・なし

3) 京臨技関係

・7月14日(土) 午後7時~8時(公益社南プライトホール)
 京都府医師会元会長 横田耕三氏 お通夜出席

・7月25日(水) 午後1時30分~午後3時

府民運動推進協議会平成19年度総会 於：京都府公館
 役員異動報告、平成18年度事業報告、平成18年度収支決算報告、平成19年度収支予算について審議がなされ全て承認された

・7月31日(火)

平成19年度第1回京臨技学術委員会班長、会計会議
 於：京都保健衛生専門学校

白波瀬副会長報告

・編集委員会 於：京都保健衛生専門学校

7月31日(火) 午後6時40分~午後7時30分

荻野学術部長報告

・班長会計合同学術会議 於：京都保健衛生専門学校
 7月31日 18時30分~ 出席；24名

・12月1、2日に日臨技生理研修会を京都テルサで京臨技生理研究班担当、「心臓カテーテル検査における各種モニタリングの基礎と臨床」、1日に湯浅会長の挨拶
 受講申し込み窓口 京臨技事務所 山方さん

江見理事報告

・8月2日 現在の会員数は950名(新・再入会75名含む)

太田理事報告

・7月18日(水) (京都府医師会館)
 第34回くらしと健康展 第3回実行委員会出席

小澤総務部長報告

・後援名義の使用依頼4件と賛助会員依頼

1. (社)京都私立病院協会 「診療病床の再編成に関する府民フォーラム」 9/8 京都府医師会館2階大ホール

2. 京都府保険医協会 シンポジウム「『やりなおせる国・日本』を創ろう - 社会保険基本法を手がかりに」 9/29 池坊学園こころホール

3. (社)日本放射線技術学会 「脳卒中の予防と社会復帰のために」 - 最新の脳の検査法と治療法 - 12/9 ぱるるプラザ京都

4. 日本医療マネジメント学会第5回京滋地方会 「患者中心の医療 チーム医療と医療連携」 平成20年2月16日 京都テルサ

5. 京都がん医療を考える会の賛助会員依頼 年間費 一口2万円

・日臨技より輸血全国研修会の広報依頼 9月9日 文京シビックホール(東京都文京区)

・石川県臨床検査技師会より義援金お礼

・近臨技関連

臨床検査データ共有化事業についてのアンケートを基幹施設に配布

・京都府関連

公益法人立入検査実施について、19年度中に医療室所管の全ての公益法人の立入検査を実施する。それ以降は3年に1回の立入検査を実施。公益法人検査実施に係る自己点検表の提出。立入検査に向けての自己点検表を京都府保健福祉部健康・医療総括室 医療室へ提出済み。法人立入検査の準備として理事の履歴書の提出をお願いします。顧問、監事の方々は現時点では提出の必要はないと判断しております。書式は添付履歴書を使っただけ、写真添付(カラー、白黒問わず)、学歴は高校卒業以後(高校卒業年月日以後)を記入、職歴は社会保険加入のもの(短期パートなどは除く)で作成してください。期限は次回理事会に提出

・会員向け9月行事予定表発送 8月20日締切り

2.【議題】

1) くらしと健康展(大田理事) <承認>

出務者の名前がまだ決まっていない研究班があり、大田理事より出務者の確認と共に委嘱状希望をメールで配信し、委嘱状希望の出務者は大田理事まで連絡。駐車券各5枚あり、必要な方は大田理事に連絡。

2) 新人研修会について(林孝俊理事) <承認>

理事及び各研究班班長の参加依頼をメールにて配信し、9/7までに出席の有無をメールにて返信し出席の確認をする。新入及び転入会員の参加は、申し込み用紙に記載し事務所の山方さんに提出する。

受付 江見理事

講演会の座長 白波瀬副会長

3) 新しい生涯教育研修制度の説明(林孝俊理事)

・履修期間3年から5年に変更となり、5年以内に修了した場合は、次年度から次のサイクル開始

・履修点数は研修の日数により点数が変更となり、基礎教科60点以上と専門教科140点以上の合計200点以上で修了

・生涯教育制度の変更に伴い行事企画申請書(ver3.3)の変更

・研修会の講師及び司会等変更となった場合には企画書の再申請を行い、急に変更があった場合には事後報告とならないように、事業部長又は学術部長に報告する等の注意事項を各研究班に配信

4) NTTドコモのPHSサービス終了の対応について(小澤理事) <承認>

平成20年1月7日終了に伴い、ウィルコムに切り替える

5) 他府県臨床検査技師会についての情報提供(次回審議)

6) 後援・賛助会員依頼(小澤理事) <承認>

・(社)京都私立病院協会「診療病床の再編成に関する府民フォーラム」

・京都府保険医協会 シンポジウム「『やりなおせる国・日本』を創ろう - 社会保険基本法を手がかりに」

上記2団体については、関係の深い関係の団体であり、返事を急がれていたため、会長一任で了承の返事

・(社)日本放射線技術学会 「脳卒中の予防と社会復帰のために」 - 最新の脳の検査法と治療法 -

・日本医療マネジメント学会第5回京滋地方会

「患者中心の医療 チーム医療と医療連携」

・京都がん医療を考える会の賛助会員

次回理事会 日程:9月13日(木)18:30

会場:川端丸太町事務所

平成 19 年度第 4 回定例理事会議事録

日 時 : 平成 19 年 9 月 13 日 (木) 18:30 ~ 20:30
 場 所 : 川端丸太町事務所
 議 長 : 湯浅宗一
 書記 : 林雅弘 議事録署名: 白井、今田
 出席顧問: 田畑
 出席監事: 清井
 出席理事: 湯浅、今井、白波瀬、芦田、石澤、今田、江見、大田、荻野、佐々木、白井、豊山、丹羽、林孝俊、林雅弘、廣瀬
 委任状出席: 小原、小澤、若栗、

太田理事
 健康展最終確認として、15 日、16 日の両日共に 14 名ずつの出務者が決定された事。臨床検査コーナーの終了時間が少し早くなり、15 日・PM3 時 45 分、16 日・PM2 時 45 分と京都府医師会から連絡があった。

林孝俊理事
 「会員証不携帯者の生涯教育履修点数登録について」
 単なる不携帯(当該年度会員)の場合は主催者(企画申請者)が登録する。研修会参加時非会員で後日入会の場合は自己申告書の提出に基づき生涯教育委員会で対応する。変更点はなく従来通りの手続きですが、再確認しました。尚、研修会参加時非会員の参加の確認は当日の不携帯証でしますので最低でも当該年度内は保管する必要があります。

1.【報告事項】

- 湯浅会長報告
- 1) 日臨技関係
 ・平成 20 年、21 年の次期会長、副会長の推薦依頼受理
 会長候補: 小崎繁昭 副会長候補: 富永博夫、才藤純一
- 2) 近臨技関係
 ・8 月 15 日(水) 14:00-18:00 於: JICA 大阪
 JICA 研修オリエンテーション 国際部セミナー打ち合わせ
 ・8 月 18 日(土) 10:00-18:00 於: JICA 大阪
 JICA 研修生 ジョブレポート発表会
 ・8 月 19 日(日) 10:00-15:00 於: JICA 病院研修オリエンテーション
 ・8 月 30 日(木) 18:00-20:00 於: 大臨技事務所
 会長会議 (別紙報告あり) 2010 年全国学会について、日臨技会長副会長候補者の推薦について
 ・9 月 12 日(水) 於 ホテルグランヴィア京都
 第 33 回日本診療録管理学会学術大会 招宴に出席
- 3) 京臨技関係
 ・8 月 30 日(木) 公益法人立入検査 10:00-12:00 於: 京都保健衛生専門学校

白波瀬副会長
 ・会報 (No.21) 発行

荻野学術部長
 ・8 月 28 日 臨床化学研修会開催 (参加者 26 名)

- 小澤総務部長
1. 厚生労働省(日臨技経由) 依頼
 「地球温暖化に係る国民運動の実践について」、「飲酒運転の根絶に向けた組織強化について」、「自転車の安全利用の促進について」、「後部座席シートベルトの着用の徹底を図るための対策について」を会員への周知依頼・・・HPリンク
2. 京都府関連 依頼
 京都府では毎年 11 月を「毒物劇物危害防止運動」と定めている。毒劇物の使用、管理の底を図るよう会員への周知依頼・・・HPリンク

3. 公益法人立入検査の報告(別紙)
4. 京都がん医療を考える会より(理事長 佐藤好威氏訪問)
 賛助会員賛同のお礼
 京都府民公開講演「第 3 回乳がん」10/6(土)13 時 於: ぱるるプラザ京都の案内
5. 京都府保険医協会より案内
 シンポジウム「やりなおせる国・日本」を創ろう
 ・会員向け 10 月行事予定表発送 9 月 20 日締切り

江見理事
 ・9/5 現在の会員数 951 名(新・再入会 73 名含む)

- 江見理事・白井理事報告
 ・京都府医療推進協議会第 10 回代表者会議、開催: 9 月 10 日 14 時 30 分~15 時 30 分、於: 京都府医師会館、出席: 江見・白井
- 1) 役員 資料
- 2) 「これからの医療・介護・福祉を守る府民集会」、6 月 2 日、3 日、9 日開催 約 200 名参加 アンケートあり 資料

2.【議題】

1) 精度管理について(荻野: 資料あり) < 継続 >
 日臨技が進めているデータ共有化・標準化については、各府県で取組みに温度差があるようです。滋賀県・奈良県は同一の資料で精度管理を実施しています。今月兵庫県も希望施設に市販資料で精度管理を 1 回/月で開始したそうです。京都府としても日臨技からの指導を待つだけでなく、自主性をもって進めていきたいと考えています。80 施設で消費税込み総額 68 万円。毎月とか 2~3 月毎にするなら、日水だけ。少なくとも 1 回は、HbA1c の精度管理も必要と思います。2,000 ~ 5,000 円の有償でも良いと思います。

2) 新入・転入会員研修会の役割分担について(林孝俊) < 承認 >

3) 京臨技理事履歴書の取扱(小澤) < 承認 >
 ・司法書士、税理士の見解をふまえた以下の提案を示し、了承された
 履歴書の使用目的は京臨技運営のためとし、それ以外の使用はしない
 使用にあたっては事前に理事会で承認を要する
 理事の退任時には返却または破棄する
 履歴書の管理は個人情報であることを考慮し事務局が厳重に保管する

5) 日臨技役員推薦について < 承認 >
 近臨技技師会、兵庫県技師会より届いている兵庫県技師会富永博夫会長の日臨技副会長推薦依頼について
 關甲信地区技師会、千葉、埼玉県技師会より届いている現会長小崎繁昭氏、現副会長才藤純一氏推薦依頼について

6) 「平成 19 年度新潟県中越沖地震」義援金募金について < 承認 >
 ホームページで掲載し、募ったお金を送金
 募金要領: 会員一人当たり 1 口 100 円、1 口以上
 都道府県募金期間: 8 月 21 日~9 月 30 日
 日臨技の送金最終日: 10 月 15 日

7) その他
 京都府医療推進協議会イベント(A.開催日時: 11 月 10 日(土) 10 時~16 時、会場: 京都勸業館「みやこめっせ」 B.テーマ: メインテーマ: これからの医療・介護・福祉を守る。サブテーマ: みんなが安心できる社会をめざして C.趣意書: 承認 D.各団体の出展 E.企業等への協賛依頼: 資料に記載のない企業等で協賛が得られる見込みがあれば紹介してほしい)
 ・パネルディスカッションを行う
 ・実行委員会は昨年同様の 10 団体(京臨技は含まない)
 ・所属団体の協賛金は昨年と同額のイベン内容検討
 ・内容については湯浅会長一任・・・出展で承認

次回理事会 日程: 10 月 11 (木) 18:30
 会場: 京都保健衛生専門学校

日臨技生涯教育制度ガイドライン

(抜粋)

平成 19 年 6 月 9 日 現在

目的

医学・医療の発展によって、臨床検査は、量的にも質的にも著しく拡大している。これに伴って、臨床検査技師・衛生検査技師（以下「検査技師」という。）の業務も多様化している。この結果、検査技師の知識・技能の質的向上が社会的にも要求されている。このような環境の変化に、検査技師が自らの意思で正しく適応し、臨床検査を担うものとして生涯学習に努め、資質の向上に努めることを組織的に援助することを目的とする。

制度の概要

日臨技生涯教育研修制度は、臨床検査の担い手である検査技師の知識・技術水準の維持向上を目指すものであり、会員の生涯にわたる自発的な学習を組織的に援助する制度をいう。会員が自発的に学習・研修し原則として、定められた履修期間・カリキュラムを基に履修点数を取得するものとする。

1. 履修期間

履修開始年度から 5 年間で 1 サイクルとする。5 年以内に履修点数の合計が 200 点以上に達した場合は、その年度で修了とし、次年度から次のサイクルを開始する。

2. 教科と科目

教科は「基礎教科」、「専門教科」とし、科目を以下のとおりとする。

基礎教科		専門教科	
コード番号	名称	コード番号	名称
1	人文・社会科学	5 1	生体検査
2	自然科学	5 2	検体検査
3	基礎教養	5 3	学会関係
4	臨床検査の基礎	5 4	認定技師関係
5	医学の基礎		
6	管理運営		
7	公益活動		
8	組織活動		

< 日臨技生涯教育ガイドライン (<http://www.jamt.or.jp/education/guideline.pdf>) から抜粋 >

修了までの履修点数の設定は、基礎教科 (60 点以上) + 専門教科 (140 点以上) = 合計 200 点以上を修得し修了となります。しかし、専門教科の履修点数の修得は容易でも、基礎教科の履修点数修得の機会を決して多くありません。

京臨技では、定期総会 (組織活動)、くらしと健康展 (公益活動)、事務所周辺の清掃活動 (公益活動) において、生涯教育研修登録を行い「基礎教科」の履修機会を設けています。積極的にご参加いただき、一人でも多くの会員の方々が生涯教育研修を修了されることを期待しています。

地域清掃ボランティア活動 (クリーン作戦) のご案内
11 月 6 日 (木) 18:30 ~
川端丸太町鴨川河川敷に集合
川端丸太町事務所付近の清掃活動を実施します
会員のみなさまの積極的な参加をお待ちしています